

1

みね (仮名) ちゃん (1歳)

みねちゃんは、生後すぐに病気がわかり、NICUに入院しました。治療に1年、かかりました。体調も落ち着いて、おうちに帰ることになりました。

みねちゃんは、人工呼吸器をつけています。鼻から入れたチューブでミルクを飲みます。昼も夜も「たん」が自分では出せないで、機械で吸い取ってもらいます。首はまだすわっていません。てんかんの発作があります。



2

病院の相談員さんから、退院のお手伝いを一緒にお願いしますと、ほっと+いけあに相談がありました。病院の相談員さんと一緒に、お母さんとお話しを聞きました。

「初めてのことで、何をどうすればいいのか、何を聞いたらいいのかわからない。」  
「わからないことが、わからない・・・。」

お母さんの不安は、いっぱいです。



3

病院の相談員とほっと+いけあで、役割分担。今回、病院の相談員さんは、退院後に使える制度の申請やみねちゃん支援チームの調整を、ほっと+いけあは、退院後の生活に必要なサービス調整を中心に支援をしました。

- ・ ショートステイの紹介や外来予約
- ・ ヘルパーさんの調整
- ・ 計画相談支援の調整 などなど

実は、相談支援の担当者を見つけられず  
一旦はセルフプラン (お母さんが作成) のサポートをしました。

(後に相談支援専門員は見つかりました)



4

おうちでの生活のイメージが出てきた頃・・・  
ほっと+いけあに、お母さんから相談がありました。

「他のお母さんは、どうされているんでしょう？  
お話ししてくれる方がいたら、聞いてみたいな。」

同じように医療的ケアが必要なお子さんをもつお母さんに、  
ピアカウンセリング (サポート) を依頼しました。

5

試験外泊！！生活のイメージがより具体的に。新たな課題も見つかりました。

6

退院前カンファレンスで、支援チームみんなでしっかり情報共有。  
いよいよ退院！みねちゃんが、家族と過ごす日々のスタートです。  
みねちゃんとの生活リズムがつくまでは、支援のやりくりやりくり  
実際、帰ってみると、いろいろなことがあります。  
お母さんもお父さんも、最初は不安いっぱいでしたが、  
何よりも、みねちゃんが、おうちでの入浴後に見せる穏やかな笑顔に、  
支援者含め、みんながほっこり。定期的に短期入所を使いながら、お母さんも  
体力を維持して、家族の時間をたのしんでいます。

